

協働のまちづくり協議会（第2回）議事概要

平成30年度実施分協働事業・市民活動助成事業 事業成果報告会

《日 時》 令和元年5月26日（日）10時～15時30分
《場 所》 松戸市役所議会棟3階 特別委員会室
《委 員》 犬塚 裕雅 会長、長江 曜子 委員、牧野 昌子 委員、杉浦 利彦 委員、
江藤 政継 委員、野村 圭子 委員、門 良英 委員
《傍聴者》 13名

- 1 開会
- 2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 諸注意等
- 5 報告および質疑応答

【協働事業 質疑応答】

①事業名：子どもたちがつくる青少年会館居場所事業

団体名：だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会

担当課：生涯学習推進課 青少年会館

委 員 質問は2点で、1点目は、青少年会館という場所が限定されるので、子ども達へ、どの範囲でどのような呼びかけをされているのか。もう1点は、本年3年目事業として継続発展となっているが、現時点で具体的な方向性はあるのか。

担当課 1点目の呼びかけの範囲は、市内の小学校、新松戸地区の学校をメインにチラシを配っている。また、市のホームページ、広報、ツイッターなどで周知している。担い手育成プログラムの方は、市内の高校、大学に直接持参して、事業説明とともにチラシにより周知をしている。2点目については、折角ここまで来て子供達も担い手として参加しており、高校生にも非常に好評なので、継続、発展させていきたい。方法については今年度の検討課題となっている。

委 員 当初予定していた調理イベントが、脱出ゲームに変更になったのはどうしてなのか。

団 体 担い手育成を脱出ゲームの実施で検討していくことを、協働事業の企画の中で進めていた。その担い手の子達その後どうしたら繋がるのかを考えて、自ら体験した事を小学生と一緒に小学生向けのイベントとして作って行くという事に力を入れてやって行きたいので、調理イベントへの力を夏休みの脱出ゲーム

のイベントへ注力した。脱出ゲームには100名を超える小学生に来ていただいたので、昨年の調理イベントも勿論成果だと考えているが、より多くの子供達に中学生と高校生との関わりを提供出来たという事を成果としたい。

- 会 長 担い手育成は何人だったのか。
- 団 体 担い手育成は全体で59名の参加、小学生プログラムに向けての参加も10名以上となっている。具体的には、プログラム講座の参加者が10名以上で、中高生ボランティア7名が当日関わった。
- 会 長 子供達は来年度に繋がるのか。今年は今年、来年は来年というふうにして層を重ねていくという考え方なのか。
- 団 体 両方あると考えている。例えば中学校3年生、高校3年生とか、ステージが変化する子も当然いるので、全員が全員では難しいと思っている。昨年、脱出ゲームの作成に参加した高校生2人から関わりたいというお話がきているので、昨年の様子を共有しながら、今年の夏休み企画を新しい子達と一緒に作って行くことを考えている。なるべく継続性を持って関わって貰いたいという希望はある。
- 会 長 子供とか或いは地域の方、親たちから、青少年会館ちょっと面白い事やっているね。変わり始めているね。とか、これまでとは違う声が届いているか。職員にとってどういう刺激を受けているのかを含めて教えて貰いたい。
- 担当課 子供達は勿論大喜びしている。地域の方達は、利用団体が関わって下さっているが、その方達は今年も声かけたらとても楽しみにして下さっている。活動以外でもロビーにいる子供達に目を配ってくださって、危ない事をしている子供達に注意をするというように、大人の目が子供達に届くようになった事は大きいと思っている。親の方達からは、夏休み期間に色々な体験をさせて貰えるのがとても有り難いという様なお声を頂いている。特にこのプログラムは、当日空いている時に来られると言う利点があることがとても好評です。これで青少年会館を知ったという方たちもとても多くいらして、とても良かったと思っている。職員にとっては、このプログラムを基に子供達や団体とコミュニケーションを図る事によって、子供たちの様子や学校の様子を知ることが出来て、今後の事業に活かせる利点があるとと思う。

②事業名：災害時要配慮者支援事業

団体名：小金原連合町会防災部

担当課：危機管理課

- 委 員 シンポジウムの位置づけは、どのようなことだったのか。呼びかけ数に対して参加数が少ないが、対象と集め方の関わりを聞きたい。
- 団 体 シンポジウムは、チラシを各家庭に配って、参加出来ない方にもこういう事をやっているという事を分かっていたかく、参加して頂いた方は確かに予想より少なかったが、啓蒙という活動として進めてきた。
- 委 員 1点目は9月8日の小金原地区防災フェア開催は、参加者約800人のうち要

配慮者が20人だが、スムーズに行ったのか。また、当日のこんな所でこんなに来て貰えたと言う内容は何か。2点目は、災害時ではなく普段から要配慮者に関わることが大事だと思うが、今後、具体的に関わっていかうということはあるか。

団 体 1点目の9月8日の体育館では、いろいろと混乱があった。高齢者等のための椅子の調達を各町会で調整してもらうように誘導したり、不満がある方を説得しながらやっていった。障がい者スポーツのボッチャを体験して頂くコーナーと防災カルタのコーナーを設けたが、防災カルタのコーナーでは、カルタの意味や読み上げる人を手話で通訳しているシーンがあり、そういう機会が実際作れたということを実感した。

担当課 2点目は、今後の要配慮者支援の運用をどうして行くのかという事になると思うが、要配慮者というと、障がいをお持ちの方、高齢者の方、それ以外に乳幼児の方、外国人の方まで幅広く範囲が取られている。災害時にどういったふうに助けていくか、最初の安否確認が非常に重要になるが、この取り組みが地域でまだ進んでいない事が非常に多いのが現状である。一番重要なのは、災害時に支援するというよりは、平時からそういった方々をどの様に支援をして行くのかということ、それを知って貰うことを、段階を追って進めて行かなくてはならない。昨年は、主に高齢者、障がい者の方をどうやって支援するのかという中に、妊産婦の方はどういった支援が必要なのかをチラシを作って、まずは知って貰うということを進めた。また、今後、実際どう動けばいいのかを訓練などを通じて積み重ねていくことで、災害に強いまちづくりが醸成されて行くのではないかと考えているので、引き続き続けさせていきたい。

委 員 この小金原連合町会の取り組みは、松戸市内での先進的な取り組みだが、これをモデルとして、現在、市内の他地域ではどんな状況なのか。

担当課 小金原は非常に進んでいる地域で、他地域では若者がいなくて支援体制の力が足りない、高齢の方はパワーが段々無くなってきてしまっていて防災訓練が出来ないといった地域もどんどん出てきている。そういった中で小金原の取り組みを逐一、市でも啓発させて頂いている。場合によっては、訓練を実際に試して見る地域の方も出てきている。なかなか進んでいない所も非常に多いが、そういう所も1つ1つ啓発を続けて、市の防災訓練なども一緒にやらせて頂いている。一番大事な要支援は、なかなか意識としては根付いていないので、今後もその啓発を継続的に続けていきたい。

③事業名：公共サイン改善事業

団体名：公共サイン研究会

担当課：都市計画課

委 員 この先、具体的なものを出して見ようかという予定はあるか。

担当課 今年度の取組みの中でワークショップの1つとして、ある限定的なエリアを対象にフィールドワークで、どこにどのようなものが望まれるのかを実際に1

- 委員 回考えて見ようという取組みを予定している。その中で僅かな限定的な対象エリアではあるが、そういった望ましい形を示せるのではないかと考えている。今、何を目標に動いているのか。また、どうやって公共サインを見直しして活動しているのか。
- 団体 折角、都市計画課の方が関わっているので、何とか具体的なものを示したいと思っている。ただ、その歴史という面で、戸定邸でもいろいろなサインがあり、作っていく方々も様々なので、なかなか統一という観点とかデザインとかという部分に踏み込めていない現状がある。アドバイスを頂いて、何処にどういう物を置いたら良いのか、実際に示そうと思っている。今後、非常に加速力を持って取り組みたい。
- 担当課 小さな地道の変化であるが、庁内で情報共有をする事によって変化が表れている。まず、道路部局との連携が図れるようになった。大段幕を含めた公共サインでこれから掲出する物の道路占用許可を取る条件として、都市計画課の計画担当と協議するようにとの条件を盛り込む事が出来た。掲出者が分からない公共サイン、設置する際は一生懸命考えるが、設置した後は意外と放置状態になる事が今回の取組みで分かって、掲出者が分からない公共サインをどうやって撤去して行こうかとの検討にも話しが及んでいる。地道な変化だが、そういった体制を整えていく第一歩が始まっていると感じている。
- 委員 具体的なサインみたいなものが見たい。それと並行して、ガイドラインの見本やサンプルをどう考えているのか。
- 担当課 ガイドラインの策定については、これから検討していきたいという話しが出ている。ガイドラインになると、掲出する公共サインの指針であったり、ゴミを作らないで全体で質を上げられる役割をするフィルターになるが、そういったフィルターの役割を果たせるガイドラインの必要性については、この取組みを受ける事で少し検討の向きが表れ始めている。策定の取組みを始めようとしている段階である。

【市民活動助成事業(スタート助成) 質疑応答】

④事業名：こども福祉フェスタ事業

団体名：Familink*

- 委員 質問は2点ある。1点目は当日の参加者313人の中で障害を持っている子ども達は何割位だったのか。2点目は毎年、開催することは難しいというのは、金銭的な事なのか、体力的な事が大変なのか実情を伺いたい。また、継続するための何か工夫があるのか。
- 団体 重症心身障害のお子さん、障害のお子さんが、59家族で60名参加、後は家族、兄弟児を合わせて195名が参加した。継続の話については、4名ないし5名の中で企画から準備、当日の対応をするのは、核となるメンバーの数も少ないので、なかなか難しいと感じた。今回の福祉フェスタ終了後から、一緒に運営に携わってくれる仲間を募っているのですが、メンバーが増え次第同じような

会を開催したい。

委員 今回何が良かったのか。ここが良かったのでこんなに上手くいったと言う所を聞きたい。また、今後の抱負を聞きたい。

団体 良かった点がいくつもあるが、こういう事をやりたいと言う声を上げた時に、同じ理学療法士の仲間、市内の障害者連絡協議会やふれあい会館の方とか、多くの方が進んでボランティアをしたいと言ってくくださった。当日の参加いただいたご家族や子ども達からは、医療的な配慮が必要な子ども達も安心して参加できたと言う声を頂いた。活動については、ボランティアとして来て頂いた千葉リハビリステーションセンターの医師の方に、この活動について医師会の勉強会で紹介して頂いたり、療法士の学会でも発表させていただき、興味のある方から同じように活動したいという様な声を頂いた。一緒に活動することにも何人かは賛同して頂き、今後は一緒に活動できる方が増えて行くと思っている。

会長 子ども達が遊んだ遊具は普段どこで遊べるのかについて、フォローがあるのか。日常的に遊具を使えるような場所があるのか。

団体 今回展示しましたブースが設置してある場所が県内に殆どない物を、ボランティアで参加頂いた東洋大学の人間工学科の先生に運んで頂いた。通常は経験の出来ない物ばかりを置いたということで、参加した方にとっては夢みたいな感じだったかもしれない。参加頂いたボランティアの中で、支援する側の人があるなら自分達のところでも使いたいということに繋がり、家族も今回使ったものをこの病院やこの施設にも置いて欲しいと、きっと声を掛けられていると思う。

⑤事業名：食を通じての多世代交流事業

団体名：小金ほのぼの食堂の会

委員 質問事項は2点で、1点目は多世代食堂ということで開催されているが、大人で単独で参加している方の割合はどれくらいあるのか。2点目は毎回の参加者のバラつきに対して、工夫をしている事があるのか。

団体 大人の大体8割位はお子さん連れの方だが、1人で来られる大人の方もいる。そういった方は、年齢層も高く独居で、家での食事が難しい。老人会には行きたくないが、子ども達と一緒にあれば勇気を出して食事が出来る、医者から野菜を沢山摂りなさいと言われても1人暮らしでどうしても料理が出来ないからここがあって良かったと言う方が、割合としてはそんなには多くはないがいらしている。人数のバラつきについては、基本的には月2回、1回目は市民センター、もう1回は町会の会館を借りているが、広さや環境の違いもあって人数が違う。市民センターでは、参加者が100人から130人いるが、町会会館はどちらかという子どもが多くて、人数も20～30人の団欒という様な環境で行っている。

委員 食事の準備で、その時々で対応している工夫や用意している事はあるか。

団体 何人来るか分からないが、兎に角お腹をいっぱいになって帰ってほしいと言う

思いがある。まずは多めに作って足りなくなると途中でスタッフが作ったり、近場のお店に走って買って来てもう1回作ったりとか、そういう苦労や努力はしている。

- 委員 子どもの様子で何か気づいた事があるか。
- 団体 回を重ねた事で、定期的に来てくれる参加者が増えた。子どもから家庭の話、ママから家庭の状況を聞くこともある。また、地域の連携が少しずつ深まり、情報共有をさせて頂けることから、あの家庭はこうなのかと言う事を見つめながら関係性を持つようにしている。子どもは、環境が変わるといろいろな変化があるようで、最初は、人見知りで学校でも友達と全然喋らなかったが、こちらの食堂に来てから段々喋るようになり、今では隣の小学校の友達も出来て、楽しく過ごしているという様なお子さんもいる。
- 委員 携わっているスタッフは、出られる人がローテーションを組んでいるのか、また、学習などのスタッフを集めているのか。
- 団体 スタッフのローテーションは一切組んでおらず、「いついつ開催しますから来られる時に時間がある中のご協力お願いします。」と言う事だけを伝えている。1日を通してずっと来て下さる方もいれば、日程が合わなくて半年間来られないが1時間だけは行けると言う方もいる。その方に合わせて無理のないようにやって頂いている。実際に少ない時は8人位の日もあったり、多い時には20人位来て頂いたりする事もある。現在登録しているボランティアは37名位いる。募集をしているが、何となくこの回は楽しかったからまた行こうとか、友達が友達を呼ぶといった繋がり広がっている。
- 委員 食器はどうしているのか。
- 団体 食器、鍋とか調理用具も全て購入して、毎都度、車で運んでいる。

⑥事業名：笑劇で施設利用高齢者を元気にする事業

団体名：浅間台笑劇研究部

- 委員 施設側の環境はどうか。また、見ている観客や施設に入居している方々の話し等を聞きたい。
- 団体 一般的には好評で喜んで頂いた。施設の人手不足を介護士の職の問題、賃金の問題を含めて身を持って感じる。終わった後も「有難うございます」と声をかける暇もない。
- 委員 参加された方々の様子も知りたい。
- 団体 反応は、職員の方々にアンケートを取っている
- 委員 年間16回位公演を行っているが、毎年リピーターと呼ばれている施設なのか、新しい施設に行くのか。
- 団体 去年まではリピートの施設で、特別養護老人ホーム27箇所のうち7箇所に行っていた。残りの20箇所に電話で活動紹介をして活動を広げている。
- 委員 補助金等が無くなった場合に、どのように継続していくのか。今後、施設から謝礼をいただくことを考えているのか。

- 団 体 これからもお金は掛かってくるが、安く出来るように考えている。人数、年齢が1番の大きな問題となっている。今、民間の助成金を申し込んでおり、活用して行きたい。お金を取るのは、このレベルでは難しいと思う
- 会 長 新規加入の希望者の声はあるか。
- 団 体 ちらほらとは聞こえている。

⑦事業名：「甚左衛門の森」保全育成事業

団体名：松戸里やま応援団「甚左衛門の森の会」

- 委 員 「森林山村多面的機能発揮対策交付金事業」は今回の松戸市の助成事業とは別の対象に交付されているのか。
- 団 体 林野庁の助成金を森という同じ対象の地域で頂いている。国の方はチェーンソーとかの機材の購入に、市民活動の助成金は消耗品に使っている。
- 委 員 ダブっていなければ良いが、二重に税金が投入されると難しい面があるが。
- 団 体 領収書などをダブって出すことは出来ないなので、そういう心配はない。
- 委 員 横のつながりはどうか。
- 団 体 市内で15の森が、我々と同じスタイルで森の整備をしており、毎月第1月曜日に代表者が集まり意見交換をしている。オープンフォレスト松戸では市民以外の人と一緒に、日程や仕分けの調整などを話し合いながら進めている。
- 委 員 オープンフォレスト松戸などで、年何回くらい開放しているのか。
- 団 体 個人所有の森をお借りして手入れしているので、自由に立ち入りはできず、年2回だけ開放している。多く開放したいが、出入りを自由にしてしまうと事故やいろいろな問題が出てくる。
- 委 員 月何回かでも開放できないか。
- 団 体 その通りだと思う。保育園に近い森ではその時々で保育園の要望に応じて開放している。まだそういった段階まで活動が進んでいないので、松戸市のオープンフォレストの時だけにしている。
- 委 員 初めてのオープンフォレストを実施した時の様子や感想を聞かせてほしい。
- 団 体 活動し始めて半年で、まだ整備も大して出来ていなかったが、ゴールデンウィークの第1番目の土曜日ということもあり、大人が10人以上で子供を含めて25人来て頂き、喜んで頂けた。今年の4月は意気込んで準備したのだが、日程がうまくいかず、8人になってしまった。来年はまた工夫しようと話している。
- 委 員 オープンフォレストは、活動を近隣地域の方が理解し、また共感等も醸し出すきっかけとなったりすると思うが参加者の声はいかがか。
- 団 体 今年は子供たちに竹細工やバードボールという鳥の鳴き声がする道具、貯金箱などの工作を土産にしたので、好評度は高かった。
- 委 員 中期的目標に森の中の遊歩道、昆虫採集、学校の課外活動とあるが、夏休み、春休みに公開の日程をうまく合わせるとか、近隣のボランティアや理科の先生に協力して頂き、自然体験を夏休みの自由研究になりそうなテーマとしたらど

うか。

団 体 私どもの目標もそこにある。樹木が50種類位あるが、樹名板を取り付け、森に来た方が勉強できるように準備していきたい。

⑧事業名：世代を超えた交流ができる地域コミュニティの場をつくる事業

団体名：明地区こあら食堂の会

委 員 町会の役員、民生委員などがいろいろ相談を受けているようだが、相談の内容を具体的に報告してほしい。

団 体 こあら食堂のある地域は、畑であった所に分譲住宅が建ち、地元になじめない新住民の方がいる。こあら食堂に来る方達の中にも地元や町会になじみにくく、足踏みしている様な新住民の方がいる。そういった方達に食事をしながらスタッフや周りの方が、町会加入のきっかけや手助けをしたりすることもある。仕事をしていて子供をかまっている暇がなく、悩みを一人で抱え込み精神的に病んでしまっていた方が、子育て経験豊富なメンバー（スタッフ）に愚痴を言ったり悩みを聞いてもらい、時には涙を流してすっきりして帰り、こあら食堂に助けられているということでお菓子やジュースなど毎回持って来てくれる。昔であれば3世代同居、隣人などにより悩みや愚痴を聞いてもらえる人が身近にいたが、今はお付き合いが疎遠になり、たまたま市役所のチラシを見てこあら食堂を訪れ、1ヶ月に1度の楽しみになったと聞き、私達もうれしく思っている。

委 員 素晴らしい活動をさらにパワーアップしていくためには、スタッフの充実が必要かと思うが、スタッフの集め方などの考えあるいは工夫をしていることはあるか。

団 体 食べ物を扱うので、調理スタッフに関しては今いるメンバーか元のメンバーの知り合いや紹介などの信頼できる人をお願いしている。調理スタッフ以外は、チラシで募集して、希望者は一度来てもらい各々出来ることからやってもらうという形にしている。学生など若い方はホームページを見て見学に来る方もいる。媒介としては、声掛け、チラシ、ホームページの3点を利用している。

委 員 助成金がなくなった場合、継続するに当たり何か工夫していることはあるか。

団 体 助成金をもらったことで活動が軌道に乗ってきた。お米を定期的に寄付して下さる農家の方や季節の野菜など、毎年、毎回支援して下さる方が増えてきた。食材もできるだけ良いものを使うことが前提だが、金額的なこともあるので安いものを探してやりくりをしている。町会も協力的になり、町会会館の使用料を、町会内価格で借りられるようになった。何とか団体として経済的な面も軌道にのってきたと思う。

委 員 2つ質問がある。1つは可愛くて素晴らしいパンフレットが出来ているが、ボランティアが描いたのか。もう1つは南部市場が近くにあるので、協力をお願いしてネットワークを作ってはどうか。

団 体 パンフレットのレイアウトは代表がした。南部市場については「そうだな」と

思う。南部市場の肉屋に知り合いがいて我々の活動に共感頂き、毎年クリスマスにチキン 60 個の寄付を頂いているが、野菜なども協力をお願いできればと思う。

⑨事業名：地域猫ってなんだろう？野良猫トラブルなくそう事業

団体名：動物福祉団体いのち

- 委員 会場変更の理由を聞かせてほしい。
- 団体 自分の知識不足で環境保全課から広報等の協力が得られない訳がないと一人決めをしていたため、500人を集めるのは無理だと言う事で会場変更した。プログラムの変更は、市議会議員選挙の際に質問を投げかけた事によってできた議員の方々との繋がりを活かす方が、今後の活動に良いとの事で変更した。
- 委員 地域猫をやりたいとの相談を、実際に受けているのか。
- 団体 今回の事業目的は、上映会だったのでその時間は取れなかったが、今年度の助成事業に採択されている他の団体にやって頂くようにお手伝いをした。
- 委員 現在の松戸市行政の地域猫活動の姿勢を深く理解したと言う事は、具体的にはどう言う事なのか。また、市議会議員とのコネクションを今後どのように活かしていくのか。
- 団体 言葉通りで私の思いを測って頂けるとありがたい。議員5人だけのコネクションではなく、別の議員の方にも関心を持って頂いている。何党ではなくて超党派で人として、この問題に関心を持って頂きたいと思っている。生産的な興味を持っていただくような活動をして行きたい。
- 会長 上映会で48人の方が出席と言う事だが、どう言う方々が来たのか。同じ思いを持った方々や来て欲しいと思っていた方々が来てくれたのか。町会、自治会の取組み、関心はどうだったのか。参加されたのか。
- 団体 小学生から高齢者まで来て頂けた。政治家にも来て頂けた。悪条件の中、平日の夜に集まって頂いたので、全員が真摯にこの問題を考え受け止めてくれた。そういう方々に来て欲しかったのでターゲットに合致していた。町会自治会に関しては、政治家の方が町会とも関係が深い方であったので良かったと思う。

⑩事業名：音楽活動によるまちの活性化事業

団体名：松戸合唱まちづくり同好会

- 会長 年間19回訪問していると言う事だが、笑劇と訪問先が重なっているのは、連絡調整されているのか、偶々なのか。
- 団体 偶々一緒と言う事もあるし、会員が笑劇と重なっている。合唱で施設に行った時に、笑劇が出来そうな時は笑劇へ紹介している。生涯大学を通して紹介して貰ってもいるので、重複している場所が多いと思う。
- 委員 団体が出した評価と、市民自治課との評価が食い違っているのはどうしてか。また、今後の活動の見込みはあるのか。

- 団 体 最初の目標を30回とあまりに設定が高過ぎたため、目標が達成できなかった。部員は、市民の方が入ったりして何とか人数確保は出来るのではないかと思う。また、ピアノ伴奏の方が非常に忙しい方なので、カラオケ形式やCDをかけるという様な事も考えたが、やはり生演奏にはかなわないと思っている。
- 委 員 生涯大学の名前がよく出てきているが、新生は何人位いるのか。
- 団 体 新生といっても60歳だが、その方達をいかに引っ張るかが1つの方法です。
- 委 員 毎年何人くらい新生はいるのか。
- 団 体 園芸の方は150人。園芸の方達はボランティアに関心のある方は少ない。一般、いわゆる地域活動の方は、今年は59人。生涯大学に来る方は他にも色々活動していて忙しい方が多いが、何とか5名は新人獲得をと思っている。
- 委 員 県の生涯大学では新生歓迎会とか、クラブ紹介、活動紹介はあるのか。
- 団 体 新生の初日にあり、18クラブが59人を取り合って、争奪戦になっている。

⑪事業名：無塩パン普及事業

団体名：数値調理会

- 委 員 試食会は毎回違う方が参加しているのか、リピーターの方が多いのか。
- 団 体 リピーターが増えた。毎回新規で参加する方が3名位いる。
- 委 員 リピーターで来る方は美味しいから興味を持って来られているのか。
- 団 体 3食ご飯だけでパンは食べないと言う方でも、楽しく作って、喋って、食べて、楽しまれている。
- 会 長 講習会に参加している方は、普段どういう食生活をしているのか。その辺りの聞き取りはしているのか。
- 団 体 今年になってからアンケート調査をして、常連の方には聞けるようになってきた。年を取ってきてからのパン食率は増えてきているが、作ることは出来ない方が多い。
- 会 長 町のパン屋さんでの展開の可能性はあるのか。
- 団 体 パン屋さんで作って貰った方が良いと大学の先生には言われているが、松戸市のパン屋さんには声掛けはまだ出来ていない。
- 委 員 健康を気にしている方には減塩だけでなく、小麦粉の中に他の物も調合してみたらどうか。
- 団 体 小麦胚芽を入れると美味しいと言うのは聞いてはいる。制限のある方もいるので、自分で調合して作って頂くのが良いと思う。
- 委 員 来年度は自立運営が見込めると書いてあるが、経済的に大丈夫なのか、宣伝しなくても良いと言う事か。
- 団 体 広報は必要だと思っている。無塩は全然ひびかないが、減塩食だと人が集まるので、それは広報させて頂く。今年から参加料を700円に上げたが、皆さん調理の楽しさを味わってくれている。

⑫事業名：子どもの居場所からの発信による地域ネットワーク構築事業

団体名：さくら広場

委員 工作教室がある日は、さくら広場に無料で来ている子たちと工作教室に来る子たちが同じ形になるのか、全く違う子が工作教室に来ているのか。関連を教えてください。

団体 この日は工作教室をやるよということに来てくれる子もいるし、毎日通って来る子は、興味があればやるし、興味がなければやらないという形で、何かやっている「何やっているの」とみたいな感じで、後から入って来る。工作教室に関しては300円を両方から同じくいただいている。

委員 中華料理の「ゆうえん」さんは、どういうふうにして開拓したのか。

団体 もともと、どこか近くのお店とっていたので、協力をお願いに行ったら、すぐに対応してくださった。子ども達にも愛着や何か応援してもらっているという気持ちを持ってもらえたらということで回ったら、1軒目で協力しますと言ってくださったので、有り難かった。

会長 地域を回るということで、さくら広場がどれだけその地域の人達に知ってもらっているのか、気づいたり、感じたことはあるか。もともとよく知っている存在だったので話がしやすかったのか、あるいは意外に自分達は知られていると思っていたがあまり知られてなくて、そこから始めたのかも含めて、その状況を教えてもらいたい。

団体 全く知られていなかった。自分では看板も出しているし、いろいろ発信していると思っていたのだが、そこはまだまだやっぱり足りないんだと思ったのが実感。やはりお子さんがいる世代の方は大体知ってくれているが、お子さんのいないところには知られていないということを知って勉強になった。

委員 第1回と第2回の地域食堂実施の参加者25名の内訳で、子ども達、あるいは高齢者の方、どんな構成になっているのか。

団体 子どもが10何人位とのお母さんたちと地域の方が2名来てくれた。

委員 今後の事業展開のところで、実質的には地域食堂をやっていききたい、自家焙煎のコーヒーの販売をしていききたいとあるが、何かその辺の目論見があれば聞きたい。

団体 子ども達が来ない時期に何かを販売したいと思っていて、そこで考えたのがコーヒー豆で、生豆だと賞味期限が長くて1年位あるし、在庫の不良が出ないし、好きな人が来て試飲ができる。試飲してもらって、買いに来るついでにほっとしてもらえる。この事業をやる中で、どうしたらもっと自然に人に来てもらえるかと考えて、コーヒー豆に行きついた。

委員 目論見があって、もう今、実際売っているのか。

団体 はい、売っている。焙煎機の購入とちょっと改装する66万円をインターネット上で募金を集めたら昨日全額達成して、そのお店が出来ることになった。この事業がきっかけで、そう考えていく力をいただいた感じがしている。

委員 プラモデルとかいろいろな教室をすることで、いろいろなことが周知できて、

実際、居場所づくりの日々の方に人が増えてきたとかという影響はあるのか。

団 体 プラモデル好きだからまた来たよとか、何か作れるという気持ちを持って、来るようになった子どもがいた。

⑬事業名：シニア世代生き生き地域資源マップ作り事業

団体名：ほっとする街を考える会 kinari

会 長 今回のマップ作りで落としこめなかった話題や皆さんの関心事があれば、どんなものがあつたのか、皆さんの関心事が集約出来たのかを含めて話してもらいたい。

団 体 参加してくださった方の中で金ヶ作地区を全部歩いて、全てを手書きの地図に落とし込んでくださった方がいたが、それが全てここに載っている訳ではなく、あえて高齢者の方たちはたくさん載せてしまうと分かりづらいということが一点と、もう一つは確認が取れていなくて、聞き取りに行ってから載せた方が良くと思うものもいくつかあつたので、今回載せきれっていない部分がある。

会 長 これは載せてこれは今回見送りましょうというやり取りが作業の途中であつたと思うが、今回はどういうふうによく同意にもっていったのか。

団 体 3回目のイベントの時に、やはり印刷をかける前にこれは載せるけれどもこれは載せないという話し合いをしなければいけないと思い、3月にもう1回イベントを開催した。歩き回って全部手書きで落とし込んでくださった方にも、例えば、通所介護事業所はケアマネさんが紹介するし、一人では申し込まないので今回は載せず、自分達で行く元気応援クラブのような所や自主的にやっているサロンのようなところを主体にしたいという話をして了解をいただいた。

委 員 印刷された3,000枚のマップは、どういう形で地域の方に配布されたのか。

団 体 関わって下さった地域包括支援センターや民生委員の方から配っていただいている。あとは、町会でこれから回覧していただくが、全てに配布してもいない方もいるので、一緒に作った「マップ配布中」と書いてあるパンフレットを付けて回覧する。欲しい方にはいらしていただければ追加で差し上げられるということで、約120枚を金ヶ作地区の全ブロックに回覧することをお願いしている。

委 員 何部くらい、配り終わったか。

団 体 完成が印刷事情でぎりぎりになつたので、配布したのは、まだ4分の1位だと思う。今後、社会福祉協議会で置いていただける所とか、マップの裏面に連絡先を載せた所にはマップを持って行きながら、こんな紹介をしたいということも含めご挨拶がてら配らせていただきたいと思いますと思っている。

【市民活動助成事業(ステップアップ助成) 質疑応答】

⑭事業名：「笑顔のお節介推進活動」事業

団体名：介護・認知症の家族と歩む会・松戸

- 委員 専門家におつなぎするようなどころというのは、直接おつなぎするというよりも、そのご相談された方が必要であればそこに自分で連絡するような形を取っているということか。
- 団体 2パターンあるのだが、直接誰々さんところへ行ってみたらというのは、それは極一部で、私がNPOで成年後見の大きい団体の立ち上げをかつてやっていた時のメンバーが各地にいて、そこに相談にのってもらっている。そうしないと先ほど財産の話とかいろいろあったが、お金が絡んでくるのでちょっと中途半端な対応ではまずいと思っている。納得いただくまで、私どもの手を離れてから3~4か月、半年間とかかかっているところもある。
- 会長 新たに松戸市民として市民パートナーになった7人の方たちというのはどういう職制の方たちなのか。年代とかお住まいのところとかを含めて教えてほしい。
- 団体 地域パートナーは、私どもが勝手に作った言葉で、普通のボランティアだが、ちょっとこだわりがあって、出来ない人を手伝って助けるという感覚は捨てて、一緒にやってよ、出来ることを見つけて一緒にやってよ、というスタンスです。講座に来てくれたり、私どもと一緒にポスティングをやったり、いろいろな相談を受けたり、おしゃべり広場によく見える方や在宅で介護しているが体が少し空いたからという方もいる。逆に、施設に預けたが、周りからいろいろ責められていて逃げたいという方たちが、同じような立場だから聞いてあげると言ってくれる。免許があるわけではない。毎週来てくれている方、ピタッと半年来なくなる方もいるが、ただお節介だけはしてほしいとそれぞれお願いをしている。現在14、5名になっている。
- 委員 家族の方も同席しているケースが多いのか。
- 団体 2パターンある。お宅に伺った時はもちろん家族の方も一緒です。私どもの講座は20名位で行うが、半分くらいは認知症のご本人が来る。私どものねらいが、寝たきりにさせない、しないということが最大の目標となっている。それは単純に布団から出ないということではなくて、外に出ないことも含めて、寝たきりと解釈しているのだから、家族の方が来ていただくのが一番良い。家族の方に認知症の本人の心を分かってほしい、認知症の方は必ず不安に考えているし、うつ状態になっているし、怒りっぽくなっている。それは周りにいる家族の言葉のかけ方が違うでしょというのが、私達が家族の方にお話しするポイントにしている。
- 委員 認知症にかかった場合にたぶん良くはならない、どんどん悪くなっていくのではないかという恐れがある。その辺をいろいろ体験されている中で話してほしい。
- 団体 まず、講座の初めに認知症がバカになっちゃうという人は帰って下さいと言うし、治らないと思っている人は来ない。治ることはないと思う。認知症の方は出来ることを探したら出来るということを家族の方も地域の方も知って欲しい。わかってくれれば、さっきのお節介の人がどんどん増える。寝たきりにしないために、特に女の人の頭をきちんとしようと訪問美容をしてくれるメンバー、歯医者さんに来れない方を連れていく、病院まで送り迎えしてくれるメンバー

も出て来て、少しずつお節介の輪が広がっている。

6 総評 会長

7 閉会